

フリガナ		所属	大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 理学専攻
氏名	M. K		情報科学 コース 1 年
派遣先名 (国名)	バーギシェ・ブッパタール大学 (ドイツ)		
派遣期間	(日本出発日)		(日本到着日)
	平成 29 年 10 月 4 日 ~		平成 30 年 2 月 10 日
指導教員 氏名	河村 哲也		Ⓔ

留学を終え、自らの成長を感じるとても有意義な経験であったと感じています。学習面においては、お茶の水女子大学では開講されていない分野の授業を履修し、自分の専門に対しての知識と理解が深まりました。また、ドイツをはじめ様々な国の出身の同世代の学生たちと親睦を深めたことから、国際社会の一員であるという自覚を得て、将来への希望とモチベーションにとても良い刺激を受けました。

○留学前、留学後で変化したこと

留学をきっかけに、自分の目的や意思をはっきりと持ち、意見をはっきり言えるようになったように感じます。留学先では、すべての日常のコミュニケーションを日本語以外で行わなければなりません。たとえば、授業でわからないことがあったときは、先生にすぐに聞かなければ授業に参加できませんし、寮の部屋の蛍光灯が切れてしまったら、管理人オフィスに行ってその旨を伝えて交換してもらわなければなりません。そういった様々な必要に迫られて、英語と、単語レベルですが現地で覚えたドイツ語、そしておのずと身振りや手振りをまじえて、自分がなにをしたくて、相手にどうして欲しいのか、全力でコミュニケーションを取っていました。こうした経験から、自分の思っていることを簡潔にまとめて伝えるというスキルと姿勢が身につきました。

また、私になにか伝えようと拙いながらも体当たりで話していると、相手も理解してくれようと真剣に聞いてくれたのが印象的でした。たとえば、授業について先生に質問したとき、先生は私が言ったことを復唱して確認して、そして私が理解しているかを確認しながらとても丁寧に答えてくださいました。このように真摯に対応してくださる先生や友人たちに出会えたことは、深く感謝するとともに、彼らへの尊敬の念にたえません。コミュニケーションにおいては、ただ自分が相手に伝えるだけではなく、自分も相手に対してまっすぐに向き合っって耳を傾ける姿勢も重要である、と学びました。

こうした意識の変化によって、以前より人とのコミュニケーションが円滑になり、物事により積極的に取り組むようになりまもなく、たとえば研究や就職活動では、周囲の人と情報交換をスムーズに再開することができました。

このように、学習面だけでなく精神面でも大きく成長する機会な経験であったと感じております。



コミュニケーションが円滑に
した。帰国後ま
しながらとても

会となり、貴重

○将来のビジョン

私は以前より、急速に情報化が進む社会に対し、深い知識と高いスキルを用いて社会をよりよくするよう貢献できるエンジニアになりたいと考えておりました。今回の留学で、私の専攻している情報科学を英語で学び、同じく情報科学を学ぶ世界各国の学生と出会ったことは、将来への希望とモチベーションに対して大きな刺激になりました。日本で使っていたプログラミング言語や手法・技術が世界で同じように使われているのを実際に目にして、情報科学の力は世界共通に通じるものであると再確認しました。

今後はこの経験を生かして、広い視野をもち、真摯なコミュニケーションスキルで同じ志を持つ仲間と協力・切磋琢磨し、活躍できる人物になりたいです。（写真：ブッパタール大学 キャンパス内）